



だてなりクン

みやぎの明治村 とよま資料館だより

登米市歴史資料館・高倉勝子美術館
発行/榎とよま振興公社
〒987-0702
宮城県登米市登米町寺池桜小路2-1
Tel: 0220-52-5566
Fax: 0220-52-2630
http://toyoma.co.jp
発行日: 令和4年4月6日



《 教育資料館編 》 第8号

// 旧登米高等尋常小学校を設計した山添喜三郎が
登米市内に設計・監督した建物は他にありますか? //

山添喜三郎は宮城県職員となった明治18年以降、登米郡内の公共施設の設計・監督に携わりました。その中で主要な建物として、図1の旧登米高等尋常小学校校舎（教育資料館）、図2の旧登米警察署庁舎（警察資料館）、図3の旧佐沼尋常高等小学校及び図4の登米郡役所があります。この4施設のうち、現在も保存されている施設は、登米町内にある教育資料館及び警察資料館の2館となってしまいました。

県内の施設では、明治36年に旧伊達邸鐘景閣の企画設計に従事、大正2年には松島の五大堂と観瀾亭の修繕、松島パークホテルの施工監理にも携わりました。

松島パークホテルは大正2年に竣工しましたが、残念ながら、昭和44年の火災により全焼してしまい、今では写真でしか見ることはできません。

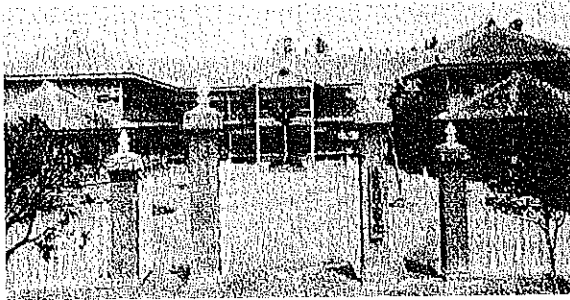


図1 旧登米高等尋常小学校校舎(現教育資料館)
(文化財校舎のあらましより)
資料提供: 登米市教育委員会

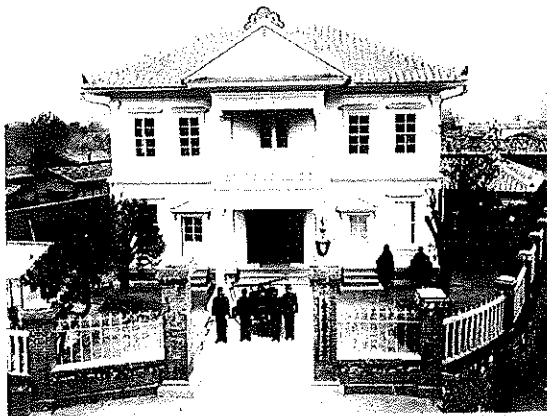


図2 旧登米警察署庁舎(現警察資料館)
資料提供: 登米市教育委員会

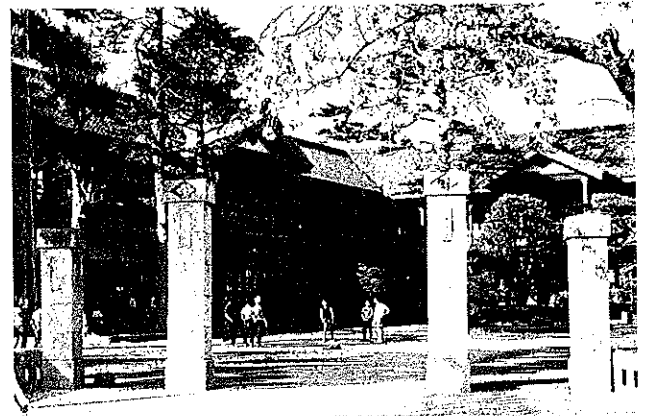


図3 旧佐沼尋常高等小学校(佐沼小学校百年のあゆみより)
資料提供: 登米市立佐沼小学校

図1の旧登米高等尋常小学校校舎は明治21年10月に落成しました。コの字型木造二階建て、延べ床面積約1,611㎡です。国重要文化財に指定されています。落成した頃に撮影された写真です。

図2の旧登米警察署庁舎は明治22年4月に落成しました。木造二階建て、延べ床面積約313㎡、県重要文化財に指定されています。

図3は旧佐沼尋常高等小学校で明治21年12月に落成しました。L字型木造二階建て、延べ床面積約1,504㎡、バルコニーが二つあるのが特徴です。

図4は旧登米郡役所です。木造二階建て、延べ床面積約545㎡、明治20年10月佐沼町内に落成しました。

※喜三郎は大正6年12月、内閣から宮城県技師に任じられ、翌7年1月に満74歳で宮城県職員を辞職しました。

当時の技師とは、中央官庁の技術系技官の上位の職位でした。特別の扱いを受けたようです。



図5 山添喜三郎 資料提供: 登米市教育委員会
※喜三郎の概要は「資料館だより」第2号を参照して下さい。

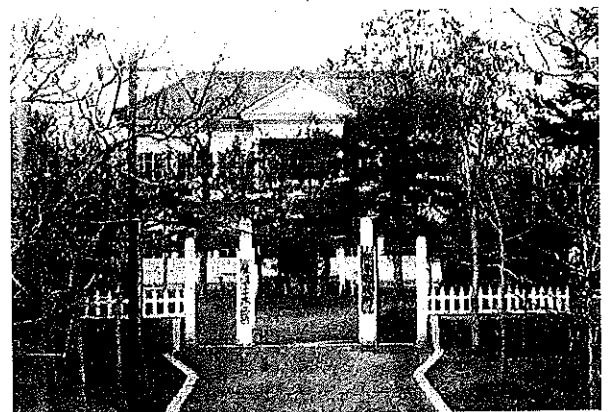


図4 旧登米郡役所 (登米郡史より)

裏面もご覧下さい

明治二十年、宮城縣仙臺市に於いて、澳国博覧会後建築術の経歴を記す。喜三郎は、同博覧会に参同し、建築術の進歩を調査し、その結果を報告した。同報告書は、明治二十年十月に出版された。同報告書の要旨は、建築術の進歩は、材料の改良、構造の改良、施工法の改良、である。同報告書の要旨は、建築術の進歩は、材料の改良、構造の改良、施工法の改良、である。

資料1 「澳国博覧会参同記要」より (国立国会図書館所蔵)
※澳国: オーストリア、維納府: ウィーン(オーストリアの首都)

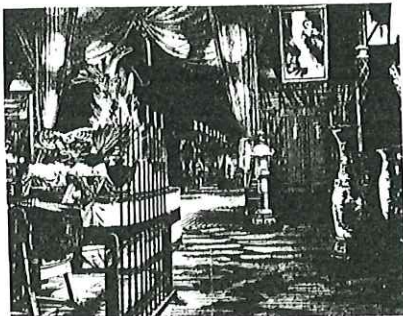


図6 澳国博覧会場本館日本列品所入口
「澳国博覧会参同記要より」(国立国会図書館所蔵)

喜三郎が書いた経歴の前段に、博覧会場の日本庭園の中に神社、商店を建築し、建築終了後に市街村落の家屋や工場の建築を見て回った様子が書かれています。

また、ロンドンの会社が神社や商店を購入したことから、博覧会終了後、ロンドンに行き神社、商店を移築、土蔵を建築して、明治7年に仏国パリを経由して日本に帰国したことも書いています。



図7 ウィーン万博日本庭園造作の図
資料提供: 佐野常民と三重津海軍所跡の記念館
右下でノミを研いでいるのが喜三郎と考えられています。

イベント情報

水沢県庁記念館では、展示資料のリニューアルに合わせて、「宮城県誕生150周年」に関する資料の展示を4月15日(金)から行います。皆様の来館をお待ちしております。

編集後記

山添喜三郎が宮城県技師であることは知っていましたが、内閣から宮城県技師に任じられたということは、今回初めて知りました。

また、技師という職位が私の認識と違って、東京帝国大学を卒業した技術者に許された特権的地位であったことも知り、改めて時代における用語の使い方の違いに驚きました。

鎌田

次号の告知

次号は(警察資料館編)で、7月に発行予定です。

警察の役割は時代と共に大きく変化してきました。その流れの一端を紹介しながら、山添喜三郎が設計・監督した「警察資料館」を考えてみることにします。



“みやぎの明治村” SNS 随時更新中です! チェックしてみてください。